

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0155880016		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	グループホームおおむらさき		
所在地	〒069-1513 北海道夕張郡栗山町朝日4丁目9-42 (電話)0123-72-6202		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年3月4日

【情報提供票より (平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.7 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨 造り		
	2階建ての	~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	15,000~21,000 円
敷金	有 ( 円) <b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) <b>無</b>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	340 円	昼食 440 円
	夕食	440 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.9 歳	最低 83 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長岡外科整形外科医院、南川歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、大規模な施設の生活より、ゆったりとした生活が適する方の存在に配慮し、小規模で家庭的な場所を提供したいという思いから、平成14年に老人保健施設に併設して開設された。職員は利用者一人ひとりの持つ力や思いを大切にしながら、前向きに明るく日々の介護に取り組んでいる。また、併設事業所と一体となった、緊急時、急変時の対応が可能であり、利用者への安全、安心を確保している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善課題はないが、自己評価を基にして、「お金を利用者が自分で払う場面でできるだけ作る、地域とのかかわりを更に進める」等の目標をあげて取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>職員全員に自己評価表を配布し、全項目に記入してもらい、管理者が集計してまとめている。自己評価は管理者、職員全員にとって共通理解に役立ち、有意義であったと考えており、その後の介護に役立てている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。徐々に町内会、老人クラブ等の理解が深まり、良い関係ができて、協力、交流が増えてきている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に利用者の日ごろの暮らしぶりを報告し、意見、要望などを聞き取るようにしている。また、1年に1回のアンケートと家族会開催時に意見、要望を出してもらい、事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>町内会や併設事業所の行事に多く参加しており、地域の老人クラブとの交流もある。ボランティアの来訪も多く、仏教法話、幼稚園・保育園との交流等、多様な機会を持ちながら、地域との連携を図っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で我が家にいるように、いつまでも美しく」という、事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内各所に掲示するとともに、職員は、ネームプレートの裏に理念を記載したカードを入れており、常に意識しながら実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのかかわりを大切に考え、町内会や老人クラブとの交流に力を入れ、行事に参加したりこちらの行事に招いたりしている。幼稚園、保育園との交流、ボランティアの受け入れ等、積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が全項目について評価することにより、1年間を振り返る機会として、話し合いの基とする等多くの意義を感じている。また、職員全体で話し合い、改善に結びつけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。回を重ねるごとに町内会、老人クラブ等からの理解が深まり、良い関係となり、協力・交流が増えてきている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設事業所が主に市町村との連携をとっており、直接関わることは少ないが、運営推進会議を通して町担当者と良好な関係ができている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者のふだんの様子を伝えている。毎月、便りを発行し、利用者の暮らしの様子を写真やメッセージを添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、利用者の暮らしぶりについて報告し、意見、要望を聞き取るようにしている。年に1回アンケートをとり、家族会で話し合うなどして、要望、意見、苦情を聞き取り、意見等があれば速やかに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は極めて少なく、異動は併設事業所間で行い、最小限に抑えている。また、離職や異動があった場合は、利用者で紹介し、説明している。家族には、たよりの送付時や来訪時に報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、計画作成担当者は事業所内外の研修に参加しており、研修内容は会議で伝えている。新採用職員は併設事業所で基礎研修を行ってから当事業所で指導している。	○	職員各自に応じた、事業所外の研修の機会の確保が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、計画作成担当者は、研修に参加した際などに、同業者と交流する機会を持っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設事業所(介護老人保健施設・デイサービス)から当事業所に移行する利用者が多く、遊びに来てもらったり、職員が訪ねたりして顔なじみになってから、利用を開始するようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の家事(食事の準備や後片付け、買い物、掃除など)を利用者とともにやり、教えてもらう場面も多く、共に暮らす家族のように支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>家事</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活の中での利用者の言葉や行動から、思いや望みの把握に努めており、その実現に努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日常の状態を把握するとともに家族の意見を反映させて、介護計画を作成している。全体会議で職員の意見交換や周知をはかっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは原則として3ヶ月だが、月1回のカンファレンスでモニタリングし、必要時に計画の追加や変更を行っている。また、利用者に状態変化があれば、その都度新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所と連携して、送迎、リハビリ、他事業所の利用等、家に帰りたいという強い思いに対する支援など、多機能性を活かして柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の望むかかりつけ医を受診している。家族による通院介助が基本だが、状況に応じて事業所が対応、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、文書を作成し、利用開始時から話し合いをしている。状態が変化したときはその都度家族やかかりつけ医と話し合い、その後の方針を決め、全員で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	どの場面での言葉かけや対応でも利用者の尊厳を守り、プライバシーに配慮している。個人情報の保管にも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や決まりは最低限にとどめ、一人ひとりのペースや、どのように過ごしたいかを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員が、持てる力と希望に合わせて、食事の準備から後片付けまでを、職員と一緒にしており、調理方法などを話題にしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後の入浴ができるが、利用者それぞれにパターンが定着しており、ほぼ1日おきの入浴となっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴、できること、好きなことを把握して、役割を見つけるようにしたり、楽しみの機会を作るようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、畑作りなど、できるだけ外気に触れる機会を作っている。天気の良い日や冬期間は、併設事業所までの長い廊下を歩くなど、機能低下の予防に取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。玄関ドアの鈴と職員の見守りで対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防災訓練(避難訓練・消火訓練)を消防署の協力を得て、併設事業所と協働で行っている。		当事業所は2階にあるので、今後は階段を使つての避難訓練が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食事摂取量、水分摂取量は毎日記録して把握している。また、利用者一人ひとりの状態に合わせた食事量や食事形態に配慮している。献立は併設事業所の栄養士が作成している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節に合わせた飾り付けや行事の写真を掲示し、落ち着いた雰囲気を作っている。温度・湿度・音にも配慮し、居心地の良い環境になるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個室には、使い慣れた家具や、本人が大切にしているものを持ち込み、安らげる空間となっている。		

※  は、重点項目。